



中堅・中小製造業の経営革新！





生産現場の問題解消





1. 生産現場の実務と問題

株式会社 IMEコンサルティング
代表取締役 立居場誠治





© Seiji Tateiba 2018 Tokyo JP

定期経営セミナー開催予定

- ・ 場所
大田区産業プラザ(Pio) 蒲田
〒144-0035 東京都大田区南蒲田1-20-20
TEL:03-3733-6600
- ・ 日時
6月29日(金) F会議室
7月20日(金) F会議室
8月31日(金) F会議室
9月28日(金) F会議室
18:30から1.5~2時間程度
- ・ テーマ
・ 企業経営関連のテーマを時期と希望により選定する

研修構成

第1回「生産現場の実務と問題」

【実務活動の問題点とは何か】
「問題とは…なに?」「問題はなぜ発生する?」などについて考えます。(問題点アンケートは第2回以降に反映します)

第2回「問題対策活動の考え方」

【問題解消の流れ・ポイントの理解】
問題解消活動の概念と、問題発見～解決の流れ、考え方、着眼点などについて学びます。

対象は、
第一線監督者および作業員

第3回「問題の発見と判断」

【問題点を見つける方法】
第一線監督者、実務担当者が、問題を見出す方法、発見時の判断・対応などについて学びます。

第4回「問題点の改善」

【適切な対応・改善の考え方】
問題点の現象への対応、原因・要因の明確化、改善案の考え方などについて学びます。

第5回「実行と定着管理」

【実績をあげるために必要なこと】
問題点の対策実行と再発を防ぐため、標準化、周知・OJT、定着化・管理、ルールの順守などについて考えます。

© Seiji Tateiba 2018 Tokyo JP

問題解消は重要な経営課題である

- ・ 会社では、日々様々な問題が発生しており、その内容は多岐にわたり、多方面に影響が生じる。

①経営	コストアップやリポート減などにより利益低減、対外的信用の問題・・・売上・利益減少
②顧客満足	不良の流出、納期遅れなどにより、ご迷惑をおかけする
③従業員満足	給料・ボーナスの低下、安全衛生の問題などで不満が生じる
④ビジネスパートナー	互恵関係を維持することが困難になる
⑤社会環境	雇用維持、社会貢献、環境汚濁などに不都合が生じる

経営を維持するには、これらの影響の排除が必要で、問題解消は重要な経営課題である。

© Seiji Tateiba 2018 Tokyo JP

生産現場の実務と問題

製造業における現場の実務は、手や治工具、設備等を使い、原材料を加工組み立てなどして、製品を作る作業を行う。

そのため、生産現場で発生する問題は、社内ではコストアップや事故・災害などにつながる。

さらに製品などの問題に気づかず顧客に流出すると、顧客満足が得られず、リポートが来なくなったり、製造物責任でペナルティを課せられることもある。

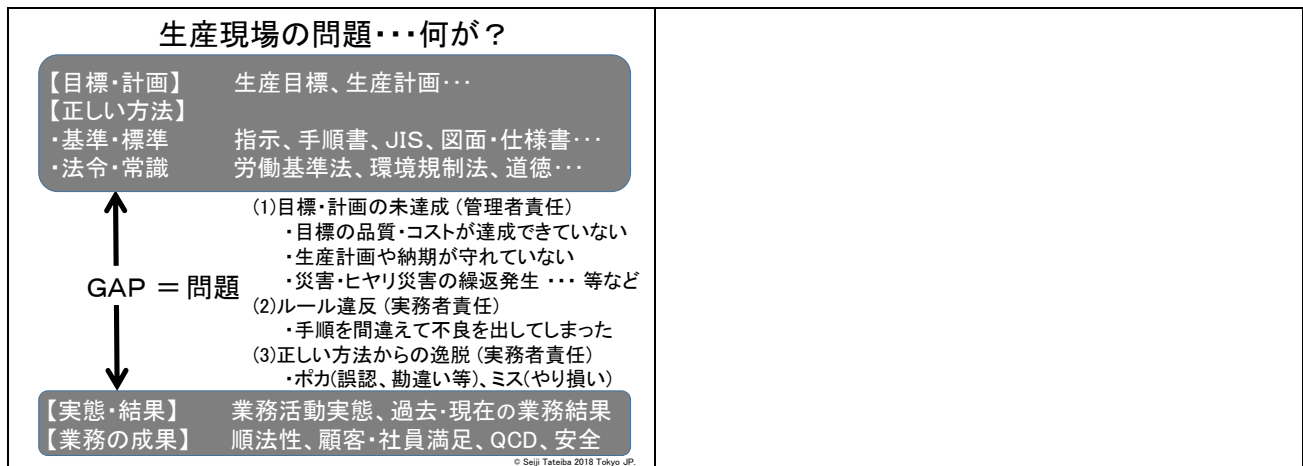
現場実務は、売上・利益・給料・顧客満足などを生む！
→問題点は、原価・安全・クレーム等に悪影響を及ぼす

ほとんどの企業では、受注に応じて生産計画を作り、課長・係長を通じて生産指示が出される。

生産現場は、生産指示に対して各工程で役割分担し、連携して生産活動を行っている。

ここで発生する問題点の多くは、その計画・実行・管理間で発生する。

© Seiji Tateiba 2018 Tokyo JP



問題点ワースト3の抽出

問題の大分類	ワースト1	ワースト2	ワースト3
1. 品質不良	組付位置精度不良	半田ミス	キズ
2. 作業時間ロス	手直し	材料待ち	探す・迷う
3. 設備の稼働・故障	チョコ停	原料詰まり	誤操作
4. 材料損失、破損、ロス	運搬時破損	保管不良(濡れ・錆)	端材、切落しロス
5. 製品機能不備、製造物責任	部品付け忘れ	防錆不良	サイレントチェンジ
6. 作業遅れ、納期、引渡	数量不足	製品検査不合格	納品運搬時破損
7. 安全、衛生、事故、災害	腰痛発生	切り傷、擦り傷	溶接時の火傷
8. 公害、環境	騒音	振動	土壌汚染
9. 情報、コンプライアンス	USBメモリ紛失	メール送信間違い	FAX宛先間違い
10. その他(環境、在庫、他)	現場が暑い	不良の混入	デッドストック

※ 注意点としては、同じ名称の問題に分類されても原因が異なる場合がある点と、その逆で同じ原因でも結果・影響の発生の仕方が異なる場合がある事があげられる。
 © Seiji Tateiba 2018 Tokyo JP.

問題はなぜ発生する？
問題はヒューマンエラーにより発生する

生産の実務は人が行う

- 生産活動は「事前(受注、計画、指示・指導)」「実行(準備・作業・検査)」「事後(保管・検査・出荷)」等の時系列の各工程で行われる。その生産活動を行うのに必要な要素は、生産の4Mと呼ばれる「人」「設備」「材料」「方法」があげられる。
- 生産の実務は、この4Mを「事前」「実行」「事後」の時系列の各工程で、うまく組合わせて、管理・実行している。

問題の発生は、地震や台風、隕石落下などの外的要因以外は、人的要因！

© Seiji Tateiba 2018 Tokyo JP.

